

第三者意見



NPO法人 大阪環境カウンセラー協会
副理事長
地球環境関西フォーラム 戦略部会委員
大学講師等
(近畿大学、大阪産業大学、鳥取環境大学等)
CEAR登録 環境主任審査員(2015年版)
ひょうげ
兵家しだれ桜保存会副会長
よしむら たかし
吉村 孝史 氏

このCSRレポートの発行は4年目となりました。当初の段階からよくここまで来たということです。と同時に留意せねばならないことは、ひとつのパターンができて、それに安心して、マンネリになってしまうことです。マンネリにならないためには、世の中の動きを敏感に捉えて、それを取り込むことです。その動きとは何か。それは、国連のSDGs(持続可能な開発目標)です。

企業経営のなかでこのSDGsが大きく取り上げられるようになってきました。2030年を目標としたSDGs(17ゴール)は、我が国においては、首相を本部長とするSDGs推進本部が設置され、経団連などが参画しています。そして、各企業ともその取り組みに注力することになったのです。SDGsについては、このCSRレポートでは社長もCSR責任者も編集後記でもはっきりと認識していますし、社内で12月22日に開催したCSRセミナーでSDGsについて説明があり理解を深めたと記されています。当社においては、既にCSRに取り組んでいるので、特に新たな取り組みをするというよりも、その中で推進していくのが一番と考えます。

まず社長のトップコミットメントによると2017年度の業績は、売上・営業利益ともに好調で、事業再構築に伴う変革は計画通り遂行され、業容の拡大に伴い躍進の段階に入っているという息吹が感じられます。そして、CSRを経営の最重要課題に位置付けられています。

その実態が如実に示されているのが、特集「私たちのCSR活動」と「VOICE」です。それには、具体的なCSR活動が力強く紹介されています。ポート競技の世界選手権入賞と国民体育大会参加、W杯を踏まえた子供ラグビー教室担当コーチ、ボーイスカウト指導20年にわたる青少年育成、ウクレレ演奏活動による慰問活動、…など話題性や分野別、地域別にも配慮し取り上げられています。編集事務局の現場に足をはこぶ密着性が感じられます。

そのなかで、特筆すべきは「口金室のリニューアル」です。口金はフィルム製造工程の基幹部品で、口金室は当社の現在から今後の業績

を支える重要な工程です。社長の話の中で、東レエンジニアリング(株)の中国向け装置部品製作が繁忙な状況が当面続くとの予想しています。口金室はキーププロセスで、そのリニューアルは移設・統合で作業動線が改善され、作業効率と安全性が大幅に向上した。合わせて省エネも進んだ。まさに、経営戦略とCSR(社会・環境)の一体的実施の好事例ということが出来ます。

次の特筆すべき事例は「従業員代表」に女性が選ばれていることです。女性が圧倒的に多い会社ならともかく、むしろ少ない会社で、労働組合のない会社で「女性の従業員代表」は女性が活躍できる企業風土づくりとして評価できます。女性管理職登用のロードマップから、更には役員も見据えてほしいものです。

また、大津労働基準監督署から協力会社の作業員の墜落事故で、労働安全衛生法違反の疑いで書類送検されたことを、隠し事にせず報告されていることは評価できます。社長はこの災害を大いなる教訓として、安全管理の仕組みやルール・体制・安全教育の方法を見直し、安全意識を改革して二度とこのような災害を起こさないと固く誓っています。社員の方と公道を歩いているとき、指差し確認されているのを目にしてその徹底ぶりを実感した次第です。

更に、東レ(株)の子会社「東レハイブリッドコード(株)」で起きた品質データ書き換え問題で、当社にも厳しい目が向けられるようになったことを踏まえて、品質保証部を設置するなど品質保証体制の強化を図っています。ISO9001の福井事業所を加えた拡張認証取得の取り組みは評価できます。

また、障がい者雇用について目標2.0に対し1.37と大きく未達なのは問題です。世の中の流れを見ればいつまでも放置できることではありません。

環境関連について、低炭素社会への取り組みについてはCO₂大気排出削減(SDGs13)は目標達成(10%に対し41.0%)、循環型社会への取り組みも廃棄物リサイクル率(SDGs12)は目標達成(98.0%に対し99.8%)しているが、自然共生社会(生物多様性)については取り組みが弱いとコメントしてきましたが、これはSDGs14,15の目標になっています。本レポートでは「びわ湖トラスト」との関わりや「琵琶湖博物館」への支援を通じて、米国人画家ブライアン・ウィリアムズ氏の目を使っての生物多様性への取り組みは評価できます。

2018年9月に当社は創業45周年という節目を迎えます。滋賀地区の本社社屋の大改装が始まっていますが、これをSDGsやCSRの目標達成の好機ととらえて未来を拓いてください。

第三者意見を受けて

CSRと経営が一体化した活動となっているか、事業運営が世の中の流れに取り残されていないかを検証しようという基本方針を掲げ、2015年にCSRレポートを発刊開始し4年目を迎えました。

編集・作成する過程で、「やらねばならぬこと」、「出来ていること」、「出来ていないこと」が明確になり、経営の道しるべの役割にもなりつつあります。

吉村先生の時宜を得た指導によりCSRロードマップにはSDGs(持続可能な開発目標)との関連も記載しました。また「私たちのCSR活動」として、メンバーの顔が見える現場活動も織り込みました。

一方では、現場レベルまで安全配慮が行き届かず重

大災害を引き起こし、大いなる教訓として安全に関する取り組みを強化しました。

当社は昨年10月に地域統括制から事業本部統括制へ組織再編を断行し、各地域に所在する保全・施設・エンジニアリング業務に横串を入れることで新たな課題が見えてきています。問題があることが問題ではなく、問題を問題視しない(できない)ことが大きな問題であり、課題を的確にとらえ経営基盤整備と事業基盤強化を進めていきます。

2018年度は組織改編の成果を求める年度となります。「CSRと経営の一体化」を現場活動に浸透・定着させ、その検証結果と成果を社内外に発信していきます。



関西ティーイーケイ株式会社
専務取締役

よろず しゅんいち
萬 俊一